

細則様式第4号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	堤 弥生		
入学年度	平成 29 年度	学籍番号	17GG603
領域	看護学	分野	
審査委員	主査	藤田 あけみ	
	副査	細川 洋一郎	
	副査	漆坂 真弓	
	副査	野戸 結花	

論文題目：災害拠点病院における放射線災害発生時の初動体制の構築支援に関する研究

審査結果要旨：

本研究は原子力関連施設の立地道府県以外の都県の災害拠点病院(以下、災害拠点病院)における放射線災害発生時の初動体制構築を支援するプログラムを開発するための初期研究である。研究Iでは、初動対応を求められた場合に積極的にその看護に向かう意識に影響を及ぼす要因を測定する尺度として『放射線災害の初動対応に関する意識への影響要因尺度』を開発し、その信頼性・妥当性を検証した。信頼性( $\alpha$ 係数)、内容妥当性(専門家会議、パイロットスタディ)、構成概念妥当性(G-P分析、TBPの構成概念との比較検討)、弁別妥当性(災害拠点病院群と原子力災害拠点病院群の得点比較)により、信頼性・妥当性が確認された5因子(【実践的知識】【専門性への志向】【他者からの役割期待】【協働体制】【放射線被ばくへの不安】)からなる23項目の尺度を開発した。研究IIでは、開発した尺度を用いて、災害拠点病院と原子力災害拠点病院・原子力災害医療協力機関に勤務する看護職者の放射線災害発生時の初動対応に影響する要因とその関連を明らかにした。Ajzenが提唱する『計画的行動理論』を理論枠組みとした仮設モデルを設定し、「行動」「意図」及び5因子を観測変数とした共分散構造分析によりモデルを検証した。結果、十分な適合度を示すモデルが得られ、「行動」を規定する要因は「意図」と【他者からの役割期待】【実践的知識】であることが明らかになった。以上の結果に基づき、災害拠点病院における放射線災害発生時の初動体制構築を支援するプログラムの提案を行った。

災害拠点病院における放射線災害時の初動対応の構築が立ち遅れている中、有効な人材育成プログラムの示唆となる提案を行うことができた点で、今後の被ばく医療への貢献が期待される。

審査論文ではこれらの研究内容について系統的かつ過不足なく論述されており、新たな知見を含んでいることが認められ、学位審査会における質疑応答も適切であった。

以上により、本論文は博士(保健学)の学位論文に値すると認められた。

最終試験 令和 2年 1月 31日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。

(以下、被ばく医療コース選択者についてのみ記入)

論文のテーマは、放射線に関連した内容であると 認められる 認められない 。